

税金を抜いて売るお店、免税店（Duty-Free Shop）

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10804/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

海外旅行に出かける日、出国審査を終えると、化粧品や香水、お酒やチョコレートがきらめくお店がずらりと続きます。飛行機を待つ短い時間にこうしたお店を見て回るのは、多くの人にとって旅の小さな楽しみでもあります。では、これらのお店はなぜわざわざ空港の内側に集まっていて、なぜ同じ品物を街中より安く売れるのでしょうか。その答えは「免税店（Duty-Free Shop）」という制度に隠れています。免税店とは、簡単に言えば「国外へ持ち出す旅行者に品物を売る際、関税や付加価値税といった税金を抜いてくれるお店」のことです。品物がその国で使われず国外へ出ていくという条件が付くため、税金をかけないのです。この記事では、免税店が初めて生まれた背景から、税金を抜ける仕組み、免税店のさまざまな形、そして買い物のときに知っておくと役立つ点まで、順に見ていきます。税金なしで買い物できる場所、免税店の仕組みと種類 免税店はどのように始まったのか 世界初の免税店は、アイルランド西端の小さな空港で店を開きました。（1）給油を待つ乗客たち1940年代には飛行機が大西洋を一度で渡れず、ヨーロッパと北アメリカを行き来する旅客機はアイルランドのシャノン空港（Shannon Airport）に降りて燃料を補給していました。乗客はその間、空港で時間を過ごさなければなりませんでした。（2）1947年、シャノン空港の試みこの空